

RL78ファミリ用 統合開発環境CubeSuite+ ご使用上のお願い

RL78ファミリ用CubeSuite+の使用上の注意事項を連絡します。

- RL78/F13およびRL78/F14グループに搭載しているCPUスタックポインタモニタ機能を使用してデバッグする場合の注意事項

1. 該当製品

- RL78、78Kファミリ用Cコンパイラパッケージ (統合開発環境つき)
- 無償評価版CubeSuite+

上記のうち、CubeSuite+ 共通部分 V1.00.00 ~ V2.02.00である製品をE1およびE20エミュレータと組み合わせて使用する場合。

バージョンの確認方法は、以下のURLからご参照ください。

https://www.renesas.com/cs+_ver

2. 該当マイコン

RL78/F13およびRL78/F14グループ

3. 内容

CPUスタックポインタモニタ機能を有効にしてデバッグした場合に、本来は発生しないINTSPM割り込みが誤って発生することがあります。

4. 発生条件

以下の条件をすべて満たす場合にプログラムを実行すると、誤ったINTSPM割り込みが発生します。

(1) 以下のいずれかを設定している。

- SPアンダーフローアドレス設定レジスタ (SPUFR) : 0xFE20超過
- SPオーバーフローアドレス設定レジスタ (SPOFR) : 0xFE20未満

(2) SPMコントロールレジスタ (SPMCTRL) のbit7 (SPMEN) を "1" (スタック

ポインタモニタ可能) に設定している。

(3) 割り込みマスクフラグレジスタ (MK0L) のbit6 (SPMMK) を "0" (割り込み処理許可) に設定している。

5. 回避策

SPアンダーフロー検出機能または、SPオーバーフロー検出機能のいずれかを使用してください。

その場合、SPUFRおよびSPOFRを以下のように設定してください。

(1) SPアンダーフロー検出機能を有効にする場合

- SPUFR = 0xFE20未満に設定
- SPOFR = 0xFFFFE (初期値)

(2) SPオーバーフロー検出機能を有効にする場合

- SPUFR = 0x0000 (初期値)
- SPOFR = 0xFE20超過に設定

6. 恒久対策

CubeSuite+ 共通部分の今後のバージョンで改修する予定です。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。